

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

【沖縄県の課題】

- 求められる英語力を有する英語担当教員の割合が目標値に達していない。
- 求められる生徒の英語力目標値に達成していない。

(具体的な対策) 各種研修会や外部テスト等を通し、教師及び生徒の英語力向上を図った。

具体的な取組内容

①小中英語指導力向上研修会(6地区:年3回)

☆文部科学省英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修により、英語担当教諭・英語教師の指導技術のスキル・アップを図った。

②小中英語力アップ研修会(6地区:年2回)

☆教員の英語力の向上を目指した集中講座。中学校において、準一級未取得教員を主な対象とし、資格取得率を高める取組を行った。大学の教授を講師とし、TOEICの内容を中心に研修会を開催した。研修会の最終日はTOEICテストを行った。
(114名が受験)

③小学校新学習指導要領説明会(6地区:年1回)

☆新学習指導要領の説明やワークショップ・公開授業等を各地区で行った。

④外部専門機関と連携した英語指導力向上研修会(研修協力校:大山小 年1回)

☆小学校 英語推進リーダー(英語教育強化加配教員1名)による実践的指導力向上研修会と公開授業の実施。授業研究会において、琉球大学教授の助言及び講話を受けた。また、英語教育強化加配教員を講師とした県・市町村主催の研修会を開催

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

宜野湾市立大山小学校の取組みの一部(9/21(金)公開授業の資料から)

指導案

時間	主な活動	児童の活動と指導者の役割	指導上の留意点
8 授業の展開	(1)めあて ある人物の説明を聞いて理解し、簡単に気をつけたら絵カードを並べ、文を作る。 (前置きの気づき・慣れ直し) → (思考・判断・表現)		
(2)本時の展開			
時間	主な活動	児童の活動と指導者の役割	指導上の留意点
1	はじめのあいさつ		
2	Small Talk	1 Greeting & Rule → HRT 2 Teachers Talk (英語と日本語の習順について)	
3	めあてを確認する。	3 めあて → HRT	
(7)	Today's goal 言葉の順序に気をつけて、Who am I?クイズを作ろう。		
(8)	4 Sub activity I play the ~ I like ~ I eat ~ (I □ □)	4 Review □ペンダの一枚としての自分を紹介します。 (前時の書き等したワークシート) ※デモンストレーション → HRT・URZU 児童の発表と確認 → URZU ①やりとりを促す。 ②リアクションを促す。(リアクションカード)	児童支援
(15)	5 Main activities	5 Activity ① Who am I?クイズを作る。(グループ) ※児童でデモンストレーション → HRT・URZU ②映像を見て、誰のことか考える。 (順番を登録しカードを並べる。)	③ある人物を説明する文を簡単に気をつけてながら並べる。 (行動観察・発表)
(8)		③隣のグループと Who am I?クイズをする。 ①グループでクイズを出し練習をする。 ②隣のグループとクイズを出し合う。 (聞き取って読み立てた文を発音する。)	
(7)	7 本時の学習を振り返る。	7 めあてを再確認し、本時の学習をまとめ、振り返りをする。 → HRT	めあてを再確認し、めあてと運動した振り返りができるようにする。
(8)	8 おわりのあいさつをする。	8 おわりのあいさつ → HRT	
(7)	Thank you. See you. Good bye.		
(3)評価	ある人物の説明を聞いて理解し、簡単に気をつけたら絵カードを並べ、文を作っていたか。 (前置きの気づき・慣れ直し) → (思考・判断・表現)		

単元計画

第6学年 外国語活動単元計画案
Unit 3 Topic: He is famous. She is great. (人物紹介) No.2
We Can! 2

活動	Classroom 第5時 9/18	Classroom 第6時 9/19	Classroom 第7時 9/20	Classroom 第8時 9/21
準備資料・動画教材	1 Greeting & Rule 2 Small Talk (前置きの慣れ直し)	1 Greeting & Rule 2 Teachers Talk 3 めあて 4 めあてを確認する。	1 Greeting & Rule 2 Small Talk (前置きの慣れ直し) 3 めあて 4 Who am I? クイズを完成させる。	1 Greeting & Rule 2 Small Talk (前置きの慣れ直し) 3 めあて 4 Who am I? クイズを完成させる。
活動	4 Sub Activity Review or Input 5 Main Activity コミュニケーション 自己表現活動	4 Review ①前時で書いた文を読み出し、カードを使って発表する。 (Follower → 質問者) (Candidate, Answer, Memory) 5 前時で書いた文を使って発表する。 ①カードを並べる ②映像を見て、誰かを check して発表する ③作った文を書き出す (自由な文を記入) 児童発表 発表	4 Main Who am I? クイズを完成させる。 ①前時で書いた文を読み出し、カードを使って発表する。 ② Small Talk を行う (自由な文を記入) ③ Who am I? クイズを完成させる。 ④ 隣のグループとクイズを交換する。 5 Sub 書く (writing) クイズクイズ (4人組) ① 前時で書いた文を読み出し、カードを使って発表する。 ② 隣のグループとクイズを交換する。	4 Main Who am I? クイズを完成させる。 ①前時で書いた文を読み出し、カードを使って発表する。 ② クイズに答えてもらう。 ③ Who am I? クイズを完成させる。 ④ 隣のグループとクイズを交換する。 5 Sub 読む (Reading) STORY TIME ① 前時で書いた文を読み出し、カードを使って発表する。 ② 隣のグループとクイズを交換する。
めあてを確認し振り返り	6 めあてを確認し振り返り 自己評価・相互評価 7 次時の予告 おわりの挨拶	6 めあてを確認し振り返り 自己評価・相互評価 7 End	6 めあてを確認し振り返り 自己評価・相互評価 7 End	6 めあてを確認し振り返り 自己評価・相互評価 7 End

英語教育強化加配教諭とHRTの打ち合わせで活用。授業作りの支援

琉球大学の東矢光代教授から指導助言

授業研究会の様子

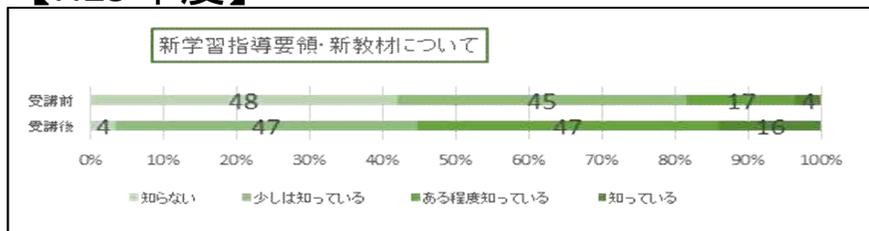
公開授業の様子



「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

(成果) 【小学校:大山小学校】

【H29年度】

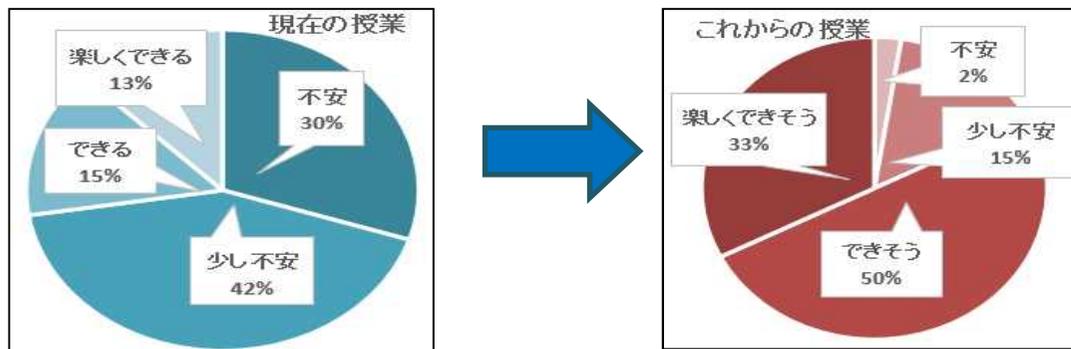


新学習指導要領・新教材の内容について「ある程度知っている」、「知っている」が11%から63%へ増えている。それに伴い、不安感が78%から27%へ減った。



教科化に関する具体的なイメージを提示することで「期待」を抱く教員が87%に増えた。

【H30年度】



○「Let's Try」、「We can」の指導内容を模擬授業を通してイメージすることで授業への不安を期待へ変えることができた。(楽しくできそう83%)

○示範・介入授業や授業参観でのアドバイス・授業づくりワークショップをすることで、ゴールを設定し、スモールステップで言語活動を意識した授業づくりができるようになってきた。

課題

●小中連携による効果的な指導と評価の在り方について取組が弱かった。

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

宜野湾市立真志喜中学校の取組

☆中学校一①H29年度は、大山小との小中連携授業を開催。小学校と同一単元による「道案内」の公開授業を行った。



Could you tell me the way to A?

Oh! That is a bookstore, isn't it?



OK! Go straight. Turn left at the traffic light. And walk about 10 minutes. You'll see it on your left.

②帯活動として下記のスピーキング活動を全学年で共通実践を図る。

- ・Let's talk together. (短文会話表現一応答) ・60 seconds (60秒以内に単元で学習する単語を発音していく)
- ・1 Minute Reading (教科書の複数のベーシックダイアログを各自音読後、教師が読み、その文をdictationする)
- ・每学期およそ2回のスピーキングテストの実施

③管内の英語科、市内近隣の市町村のALT、JTE対象にした授業実践を行い英語科教員のみならず、ALT、JTEにも英語教育の方向性を示した。

④英語検定の実施

- ・宜野湾市の英検検定料半額補助制度や英検の研修協力校の特別価格を利用し、受験者数が第2回317名、第3回210名が受験。

(成果)

英語検定合格者		
級	受験者	合格者
準1級	2	1
2級	7	2
準2級	45	9
3級	134	44
4級	77	41
5級	52	43
合計	317	140

合格率平均 44%

(課題)

- 小中連携による効果的な指導と評価の在り方
- パフォーマンステスト実施の時間確保
- 公開授業の実施の持ち方

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

成果(沖縄県) 目標管理値

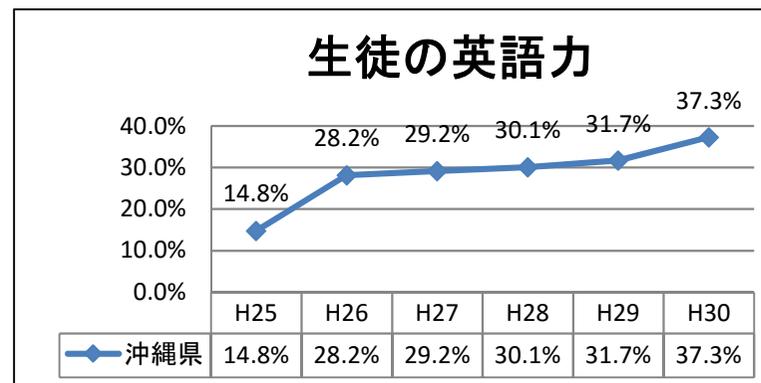
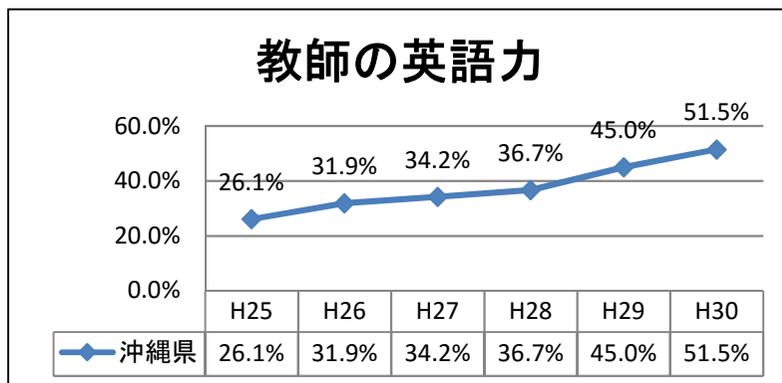
校種	No.	指標内容	2017	2018	
			達成値	目標値	達成値
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	45.0%	50.0%	51.5%
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	31.7%	40.0%	37.3%
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	98.0%	98.0%	93.0%
		公表(%)	10.9%	70.0%	16.6%
		達成状況の把握(%)	51.7%	98.0%	53.7%
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	76.5%	80.0%	69.5%
	⑤	パフォーマンステストの実施状況 スピーキングテスト(回)	2.8回	3回	2.9回
		ライティングテスト(回)	1.9回	2回	1.8回
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	77.4%	75.0%	84.2%
	⑦	英語担当教員に対する研修実施回数	20回	18回	18回
⑧	研修受講者数	444	450	245	

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

H29年度 目標値 50.0% 達成値 45.0% → H30年度 目標値50.0% **達成値51.5%**

②求められる英語力を有する生徒の割合

H29年度 目標値 40.0% 達成値 31.7% → H30年度 目標値40.0% **達成値37.3%**

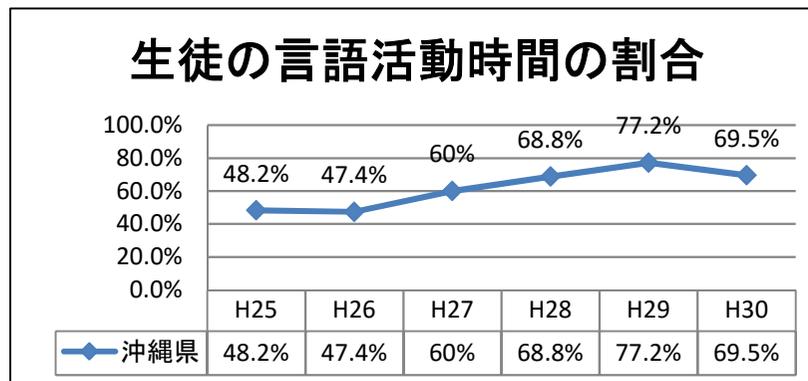


「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

成果(沖縄県)

③生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

H29年度 目標値 70.0% 達成値 76.5% → H30年度 目標値80% 達成値 69.5%



④パフォーマンステストの実施状況

【H29年度】スピーキング	目標回数3.0回	達成回数2.8回
ライティング	目標回数2.0回	達成回数1.9回
【H30年度】スピーキング	目標回数3.0回	<u>達成回数2.9回</u>
ライティング	目標回数2.0回	<u>達成回数1.8回</u>

○H30年度はH29年度と比較して、教師の英語力が6.1ポイント、生徒の英語力が5.6ポイント向上した。教師の英語力の向上に伴い、生徒の英語力も向上が図られた。

○県が定める目標管理値のほとんどの項目で目標値を達成できた。

○小学校の公開授業において、学校・市・事務所・県教委と連携して開催することができた

○英語教育強化加配教員が要請訪問等で36校、11の市町村主催の研修会で講師を務めることにより、管内の小学校教員の指導力向上が図られた。

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～沖縄県～

課題

- 中学校3年生の英語力が、依然として国が目標とする数値に達していない。
- 授業において言語活動を行う時間の割合にまだ課題が見られる。
- 定期テストの出題の質に学校間で差が見られる。
- 小学校と中学校の連携した取組が弱い。

成果の波及・周知について

- ☆ 研修協力校による公開授業・授業研究会を開催し、県内小中学校の教諭を参加させ、取組や成果の周知を図っている。
- ☆ 管理職研修会等で、成果を周知している。
- ☆ 英語教育強化加配教員や英語推進リーダーを講師とした、市町村教育委員会や県主催の各種研修会等で、周知を図っている。

課題解決の手立て

- ◎ 毎年4月に開催される第1回英語担当指導主事連絡協議会で、前年度の県の課題を検証し、改善の手立てを話し合い、各教育事務所において実践を行う。また、1月の第2回の連絡協議会で、成果報告を行う。
- ◎ 各種研修会や学校訪問等で、県が作成した「問いが生まれるサポートガイド」の活用促進を図り、言語活動を中心とした授業改善を図る。
- ◎ 夏休みまでに各教育事務所で管内全学校の定期テストを確認し、テスト出題の質の向上を図る。
- ◎ 県主催の研修会で小中連携の研修会を開催し、英語教育の相互理解を深める(予定)

平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～宜野湾市立大山小学校～

目的 主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成 —他者に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して—
次期学習指導要領をふまえた英語指導のあり方を探るとともに、教員の授業力向上を図る。

現状(課題)

- ・外国語・外国語活動の指導に不安をもっている。
- ・次期学習指導要領について(外国語教育の理論)知りたい。
- ・『We Can!』『Let's Try!』の指導法が知りたい。
- ・外国語活動の単元構成や授業づくりのポイントがわからない。

課題解決のための手立て

- ・英語教育強化加配教員による授業参観・示範授業・介入授業
- ・次期学習指導要領及び外国語教育の理論の周知。(講話)
- ・授業づくりと指導のポイント(模擬授業・ワークショップ等)
- ・公開授業(9月)・小中高連携

具体の取組の内容

- ① 示範・介入・授業参観・・・指導助言・アドバイス・ALTとの関わり方
デジタル教材の活用
- ② 授業づくりにかかわる支援・・・授業の基本的な流れ・単元構成のポイント
効果的なアクティビティー・授業づくりワークショップ
- ③ 研修会・研究会・・・次期学習指導要領(理論研修)
『Let's Try』『We Can!』(模擬授業)
英語授業力研修・英語力向上研修
- ④ 公開授業・・・6年生『She is great. He is famous.』文構造の気づき(小中連携)
- ⑤ その他・・・優れた実践の紹介・教材の提供・共有

授業の実際

主体的

- コミュニケーションを図る目的・場面・状況の明確化。
- 学習の見通しと振り返り(単元計画・中間評価・振り返りシート)

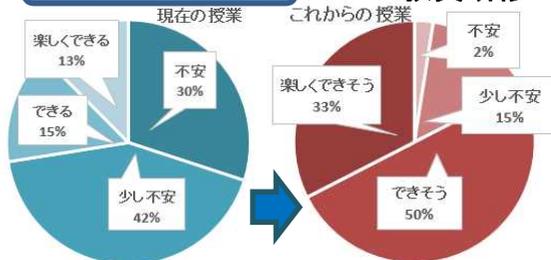
対話的

- 授業全体がコミュニケーションの場(言語活動を通して)
- 情報-考え-気持ちを他者と伝え合う活動
(自分のこと・本当のこと)

- コミュニケーションを円滑にする言葉の活用
(リアクションレベル・リアクション言葉集)

成果①

教員研修



○『Let's Try』『We Can!』の指導内容を模擬授業を通してイメージすることで授業への不安を期待へ変えることができた(不安・少し不安72%→楽しく・できそう83%)

○示範・介入授業や授業参観でのアドバイス・授業づくりワークショップをすることでゴールを設定しステップで言語活動を意識した授業づくりができるようになってきた。

成果②

児童の気づき・感想

- ALTの先生とお話して、伝わったので、楽しかった。また、お話したい。
- 自分の好きな物(事)を友達に伝えることができて、うれしかった。
- 自分の言いたいことが言えるようになって、友達や先生との会話が楽しい。
- 自分のことから先に言い、質問すると伝わりやすいと気づいた。
(I like vanilla. Do you like vanilla?)
- 友達がリアクションで助けてくれたから、次は自分もそうしたい。
(I want to be a teacher. / Why? / ... / Do you like Children? / Yes, →2回目は自力で理由も話せた。
- リアクションを返して、やりとりが続くようにしたい。リアクションレベルを上げたい。

今後の課題・方向性

授業

- 高学年:教科化を意識した授業作り授業実践
- 中学年:導入を意識した授業作りと授業実践
→授業作りのアドバイス
→言語練習でなく言語活動のある授業実践
→授業全体がコミュニケーションの場となる授業
→ALTとHRTの役割の明確化

小中連携

- 小中連携による効果的な指導
→英語経験のちがう中1生に対応した連携
→校種間の目標や指導法の違い等の学び合い

評価

- 評価規準の研究・作成と評価の在り方
→文部科学省からの評価の在り方の周知

平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～宜野湾市立真志喜中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・授業における言語活動の実施と生徒の英語力に課題がある。帯活動や英語検定実施等を通して課題解決を図る

具体の取組の内容

【校内での取組み】

- ・英語科7名＋ALTで週1回教科部会を実施する。
- ・英語科全員授業研究を行う。
- ・英語科へのアドバイザーからのレクチャー等を行う。
- ・インプットなくしてアウトプットなしをモットーに沢山インプットを行う。活動とのメリハリをつける。

【帯活動】

- ・Let's talk together. (短文会話表現一応答)
- ・60 seconds (60秒以内に単元で学習する単語を発音する)
- ・1 Minute Reading (教科書の複数のベーシックダイアログを各自音読後、その文をdictationする)
- ・毎学期およそ2回のスピーキングテストの実施 (ALT等の協力も得る)

【英語教育推進リーダーの取組】

- ・管内の英語科、市内近隣の市町村のALT/JTE対象にした過去2年間の授業実践を通し、ALTにも方向性を示した。

【英語検定】

- ・宜野湾市の英検検定料半額補助制度や英検の研究協力校の特別価格を利用し、受験者数が第2回317名 第3回210名 受験している。

第2回の各級の合格率

級	受験者	合格者	合格率
準1級	2	1	50%
2級	7	2	29%
準2級	45	9	20%
3級	134	44	33%
4級	77	41	53%
5級	52	43	83%
合計	317	140	44%

成果①

- ・口頭での応答について、間違いを恐れる生徒が減ってきた。
- ・パターンの返答を丸暗記することで、文の仕組みが分かって、単語を入れ替えて答えることが出来る生徒が出てきた。
- ・インプットなくしてアウトプットなしでインプット量が増えるにつれ、アウトプットも向上してきたように思える。
- ・市内のALT/JTEの先生方の研修の機会がすくないため、学習指導要領に沿った英語の実践方法を授業形式で示すことが出来たので、ALTの先生方も方向性が分かり、各校でも取り組みが波及を期待している。

成果②

- ・研究授業をお互い参観し合い、授業について、忌憚のない意見を言い合える環境で切磋琢磨できた。
- ・スピーキングテストの学期2回の実施により、評価にもペーパーテストだけでなく、より明確になった。
- ・英語検定の実施により、自分の英語レベルの向上に意欲的になってきた。
- ・英語検定の結果を、授業の評価にも考慮する

今後の課題・方向性

- ・小中連携の取組が弱かったため、次年度は、区域にある小学校と小中連携授業等を通して、双方の英語教育の共通理解を図る。
- ・依然として中学校の英語力が伸び悩んでいる。アウトプットを意識した授業改善に英語科で取り組み、英語検定等の結果を活用しながら生徒の英語力向上を図る。